

「旧東校舎お別れ感謝の会」埼玉新聞への掲載について

日頃より本校の教育活動へのご理解とご協力を賜り感謝申し上げます。

さて、去る5月25日に大戸小学校後援会、おやじの会により「旧東校舎お別れ感謝の会」が行われ、大変多くの卒業生や地域の方々がご来校されました。このときの様子が、埼玉新聞（6月1日）に掲載されましたので、ご紹介いたします。

なお、学校ホームページにはカラー版で掲載しておりますので、ぜひご覧ください。（配付、ホームページへの掲載については埼玉新聞社から許諾を得ておりますが、ご家庭での閲覧に留めてくださいますようお願いいたします。）

(第3種郵便物認可)

埼玉新聞

思い出の東校舎に感謝



タイムカプセル（下）から当時の文集や寄せ書きなどが出くるときに卒業生らから歓声が上がった。5月26日午後、さいたま市中央区の大戸小学校

旧東校舎は1956年に完成。68年の歴史を刻んだ

さいたま大戸小

31年前のタイムカプセル開封

たくさんの思い出をありがとう。さいたま市立大戸小学校（吉岡貴和校長、児童数446人）で5月25日、解体される旧東校舎を開放し、教室や廊下を歩いたり、壁にメッセージや絵を描くとともに、31年前のタイムカプセル

が開封された。当時の1〜6年生約700人が記したクラスごとの寄せ書きや将来の自分に宛てた作文など過去からの思い出の品々に、卒業生らは感慨深い」と懐かしみ、作文や絵などを持ち帰った。（石井大輔）

過去からの贈り物に沸く

た。夏ごろから旧東校舎の解体工事が始まる予定で、大戸小後援会（宮下靖尚会長）などが「お別れ感謝会」を企画。その中で、31年前の創立50周年記念事業の一環で埋められたタイムカプセルの開封式がメインイベントとして行われ、年季の入ったオレンジのカプセルから文集などが出てくるたびに教室を埋め尽くした卒業生や在校生らからの歓声で沸いた。

当時4年生だった武藤慎一郎さん（40）は将来の夢を「Jリーガー」と記していた。プロ選手にはなれなかったが現在5〜12歳の子どもにサッカーを教える指導者だ。「30年前の自分に『サッカーの仕事をしていよう』と伝えたい」と笑顔を見せた。当時3年生の高橋裕之さん（39）は何を入れたかを覚えていなかったというが「久々に会えた同級生もいて感慨深い」。当時6年生の久田愛佳さん（48）

は校舎の取り壊しに「思い出があるのが寂しい」と名残を惜しんだ。

実はこの開封式、1人の卒業生の「記憶」が開催のきっかけとなった。当時5年生の田中真理子さん（41）は児童会に入っており、50周年記念式典で進行役を務め、「30年後にカプセルを開けます」と言ったのを覚えていた。時は過ぎ4年前、新東校舎を建てる際に、埋めた場所からカプセルが掘り起されたことを知り、学校に電話をした。時間は要したが学校や後援会などの協力もあり、晴れて実現。「プチ同窓会みたいで、最高の日」と目を輝かせた。田中さんの夫榎高さん（42）は5年1組のクラスメート。当時、絵を描いた自宅に家族と暮らしていた「今思えばすごいですね」。父親も大戸小出身で、3年生の長女陽菜さん（8）と1年生の次女丹梨さん（6）も同小に通う。新校舎で学ぶ2人の娘に「友だちや先生とのつながりを大切に、新しい思い出をつくってほしい」と言葉を贈った。カプセルに入っていた思い出の品々は、今年12月末まで学校に保管するという。

問い合わせは、大戸小学校（☎0448・831・3796）へ。